

(案)

千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想

目次

1 策定の趣旨	2
2 現状と課題及び対応の方向性	3
(1) 現状と課題	3
(2) 対応の方向性	4
3 ビジョン(展望).....	5
4 機能.....	6
(1) 各機能の方針と取組みの方向性.....	6
(2) 各機能の相互関係.....	10
5 スケジュール.....	10

1 策定の趣旨

千葉市では、「個性豊かな新しい千葉文化の創造」の実現のため、平成11年(1999年)に策定した「千葉市文化振興マスタープラン」のもと、「第1次・第2次千葉市文化芸術振興計画」に基づき、多様な文化芸術施策を展開してきました。

国においては、平成29年(2017年)の「文化芸術振興基本法」の一部改正により、「文化芸術基本法」が成立し、文化芸術施策に加えて、観光・まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連分野における施策についても法律の範囲とし、行政が地域・民間事業者・学校等の多様な主体と連携して、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展、創造に活用することが求められています。

文化芸術を取り巻く大きな社会状況の変化の中で、中核的な事業として令和3年(2022年)「千の葉の芸術祭」を開催し、市の地域資源の魅力を広く市内外に発信しました。また令和5年(2024年)に新たに「第3次千葉市文化芸術振興計画」を策定し、「文化芸術にあふれ創造性豊かな千葉市」を目指すべき姿として文化芸術振興を推進しています。

芸術祭の定期開催に向けて令和7年(2025年)「千葉国際芸術祭」を開催するほか、令和6年(2024年)「千葉市前澤友作アートのまちづくり基金条例」を制定し、「アートによるまちづくり」というテーマで民間企業等からアイデアを募集して行政課題や地域課題の解決に取り組むなど新しい展開も開始しています。

こうした新たな展開を始動する中で、取り組みを一過性のものとせず本格化して、「文化芸術にあふれ創造性豊かな千葉市」を実現していくためには、文化芸術の推進体制を構築していく必要があります。

他の地方自治体においては、文化芸術基本法の成立や、その他関連法規等の制定を背景に、文化政策の推進体制をより専門的なものにしていくため、地域版アーツカウンシルが相次いで設置されています。

千葉市が、第3次千葉市文化芸術振興計画を総合的かつ戦略的に推進し、文化芸術都市として発展していくためには、実効性のある専門的な推進体制が不可欠であることから、その体制の方向性を定めるため千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想を策定します。

2 現状と課題及び対応の方向性

(1) 現状と課題

(i) 地域資源の活用や連携

芸術祭において地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)の掘り起こしや、地域資源を活用したプロジェクト・関連分野と連携したプロジェクトを実施していますが、芸術祭の本会期のない平時の文化芸術振興においては十分な広がりが無い等の状況があります。

千葉市の地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)を活用した文化芸術活動は、シビックプライドの醸成、文化芸術の「千葉市らしさ」の創出につながるため、継続して地域資源の調査、文化芸術以外の関連分野(観光・まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等)と連携した自主事業の研究をする必要があります。

また、芸術祭の取り組みを一過性のものとせず、創出されたプロジェクトや地域の専門人材の活動を継続して発展させることで、千葉市の文化芸術振興を図る必要があります。(芸術祭を契機とした文化芸術振興)

(ii) 市民の文化芸術活動の裾野の拡大

文化芸術を行う個人・団体に対する相談窓口を実施していますが、相談件数が少なく、解決できる内容も限定されている等の状況があります。

千葉市で文化芸術活動を行う個人・団体の裾野を拡大するためには、相談内容の実態を十分に把握し、本市で文化芸術を行う個人や団体に、専門的な視点から相談支援・伴走支援を行う必要があります。また、既存の文化施設(美術館、文化ホール等)や市外の文化施設等との一層の連携も必要です。

(iii) 効果的な補助・助成支援制度

文化芸術への市民参加、市民育成に資する補助制度を実施していますが、市民参加事業は申請事業が固定化してきており、市民育成事業は新規の申請がほとんどない等の状況があります。

文化芸術振興計画を推進していくためには、補助・助成支援制度を受けた文化芸術活動が市民にどのような効果を及ぼして、文化芸術振興計画の推進にどのように寄与するか分析し、文化芸術振興計画を推進する効果的な補助・助成制度を再設計・実施する必要があります。

(iv) 文化芸術の担い手の人材育成

ボランティアの育成研修等を実施していますが、年間の実施件数が少ないことに加えて、文化芸術活動の個人・団体の運営支援そのものの講座・研修の実施がない等の状況があります。

千葉市の文化芸術活動が活発に行われるためには、文化芸術活動を行う個人・団体が本市での文化芸術活動に魅力を感じることができる環境を整備するほか、本市の文化芸術の担い手が自律的・継続的に活動を続けられるように計画的な人材育成支援を実施する必要があります。

(v) 迅速・柔軟な戦略的広報展開

文化施設等のイベントなどを一元化した情報をホームページ等で発信していますが、画一的な情報発信にとどまっている等の状況があります。

千葉市内外に本市の地域資源の魅力や価値を伝えるためには、文化芸術振興計画の理念に基づく戦略的(対象者に合わせた情報の選択、対象者に発信方法の選択)な情報発信を実施する必要があります。

表 課題と解決に向けて強化する機能

課題	解決に向けて強化する機能
i 継続的な地域資源の調査が必要 関連分野と連携した自主事業の研究が必要 芸術祭の取り組みを継続して発展させることが必要	・調査・研究機能 ・芸術祭を契機とした推進機能
ii 解決につなげられる相談支援が必要	・相談支援・指導助言機能
iii 文化芸術振興計画を推進する効果的な補助・助成が必要	・補助・助成機能
iv 計画的な文化芸術の担い手の人材育成が必要	・人材育成機能
v 戦略性をもった情報発信が必要	・情報発信機能

(2) 対応の方向性

文化芸術振興を強力に推進するためには、各課題に対応しつつ、長期的に文化芸術の担い手やアーティスト、地域と関わりを持ち、既存の組織にとどまらず横断的に対応できる仕組みが必要です。また、各課題を解決するために強化すべき機能は相互に関連しているため包括的に対応し、自律的かつ継続的に推進できる仕組みが求められます。

そのため、文化芸術の専門的な人材の配置など、高い専門性を備えた実効性のある新たな推進体制の構築が必要です。

3 ビジョン(展望)

前章で示した本市の文化芸術の課題解決を着実に推進するため、千葉市でアーツカウンシルを設立します。ついては、千葉市アーツカウンシル【仮称】の指針となるビジョン(展望)を次のように定めます。

ビジョン

専門的・長期的な視点で文化芸術活動が活発に行われる環境をつくり、
千葉市の文化芸術活動を市域全体に波及していくことで、
「文化芸術にあふれ創造性豊かな千葉市」を実現します。

本市の文化芸術振興においては、年齢(子どもから高齢者まで)、性別、国籍、障害の有無に関わらず、多様な市民が文化芸術活動を身近に感じ、個人の関心に応じて楽しく文化芸術活動に参加できる環境を整えることが一層重要です。千葉市アーツカウンシル【仮称】は、社会的包摂の実現に貢献し、すべての市民が主体的に文化芸術活動に参加する機会を拡充することで、文化芸術活動が活発に行われる環境を創出します。

市民が文化芸術に「千葉市らしさ」を感じることは、まちへの誇りや愛着、シビックプライドの醸成につながる重要な要素です。千葉市アーツカウンシル【仮称】は、本市の地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)や懐の深い市民性などの特徴的な要素を活用することで、「千葉市の文化芸術活動」を醸成していきます。

本市の文化芸術振興の中核的な事業である芸術祭については、千葉市アーツカウンシル【仮称】が、その成果を平時の文化芸術振興や次回の芸術祭に反映させることで、持続的な循環を生み出すことに加えて、今後の「芸術祭の定期開催」や「アートによるまちづくり」など新たに始動する展開において、千葉市アーツカウンシル【仮称】が文化芸術の専門的知見を活かして事業を本格化することで、その効果を市域全体に波及していきます。

4 機能

(1) 各機能の方針と取組みの方向性

2(2)課題解決のための機能強化の方向性で整理した千葉市アーツカウンシル【仮称】の機能の内容について具体的に示します。

- | | |
|---------------|-----------------|
| A 調査・研究機能 | D 人材育成機能 |
| B 相談支援・指導助言機能 | E 情報発信機能 |
| C 補助・助成機能 | F 芸術祭を契機とした推進機能 |

A 調査・研究機能

千葉市の文化芸術の魅力や価値を表出するためには、まず千葉市のもつ地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)を掘り起こし、把握する必要があります。掘り起こした地域資源について活用を検討するほか、人的資源・空間資源・歴史や自然をつないでいくことで、本市の文化芸術を振興するための基盤を整備します。

A-1 市内の地域資源のネットワーク形成

アーツカウンシルが専門性を活かして、フィールドワークを中心に地域に入り込んでいき、市内の地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)を調査します。また、文化芸術の担い手との関係性を構築し、文化芸術振興に資するネットワークを形成します。

A-2 市民の文化芸術の活動成果のアーカイブ化

アーツカウンシルが専門性を活かして、テーマ(高齢者の視点、障害者の視点、子ども・若者の視点、学生の視点、外国人の視点 等)を設定して、市民の文化芸術の活動成果を調査し、アーカイブ化します。アーカイブ化の際には、作品だけではなく、インタビューなどで作品のバックボーンやストーリーを深堀して蓄積していきます。

アーカイブ化された作品は、アーツカウンシルの専門人材がキュレーションして、その価値や魅力を情報発信するなど、文化芸術振興に活用します。

A-3 先進的な自主事業(パイロット事業)の研究・実践

アーツカウンシルが専門性を活かして、文化芸術と異なる他の政策領域(経済・観光、福祉、学校教育、病院、動物公園等)と連携した先進的な自主事業(パイロット事業)や、調査した地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)を活用した先進的な自主事業(パイロット事業)を研究・実践します。

自主事業(パイロット事業)は、市内の文化芸術の担い手と共同で事業展開することで、市民の文化芸術の裾野を拡げます。また、自主事業(パイロット事業)の一部は、芸術祭での事業展開を検討します。

B 相談支援・指導助言機能

千葉市で文化芸術活動に取り組んでいる、文化芸術の担い手(実践する人・鑑賞する人・支える人)を対象として、文化芸術の専門的な見地から相談・助言などの支援をすることで、市内の文化芸術活動の活性化、継続、発展を図ります。また、市内の文化芸術振興をハード面で支える文化施設と連携していきます。

B-1 文化芸術の担い手(実践する人・鑑賞する人・支える人)への相談支援

アーツカウンシルが専門性を活かして、本市で文化芸術活動を行う個人・団体などの、文化芸術の担い手に対して、相談や助言を交えた伴走支援を行います。

また相談内容に合わせて、アーツカウンシルの外部の文化芸術の専門家を紹介する橋渡しも行います。

● 想定される支援のイメージ

- 主催者の関係者以外の人を呼び込む集客に関する助言・支援
- 助成金・補助金の紹介や申請書の書き方に関する助言・支援
- 異なる文化芸術の分野や異なる世代などとのコミュニケーションに関する助言・支援
- 公演・展覧の見せ方の工夫に関する助言・支援

B-2 文化芸術活動の拠点形成の促進

アーツカウンシルが専門性を活かして、文化芸術活動の拠点(創作芸術の制作場所、舞台芸術の練習場所、文化芸術の担い手の交流場所)の形成を促進します。拠点はアーティストインレジデンス等の事業展開にも活用します。

また、活動場所に関する情報を集めて、文化芸術活動を行う個人・団体に提供します。

B-3 文化施設との連携

アーツカウンシルが、市内の文化施設(美術館、文化ホール等)と情報交換を行い、専門性を活かして各事業がより充実した企画となるように連携します。

B-4 他市の文化施設等との情報交換

アーツカウンシルが、近隣市や東京圏の文化施設やアーツカウンシルと情報交換を行い、専門性を活かして本市の文化芸術振興に活用します。

C 補助・助成機能

千葉市文化芸術振興計画の各基本目標に応じた補助・助成制度を設計・実施することで、文化芸術振興計画推進に資する文化芸術活動を支援します。

C-1 千葉市文化芸術振興計画を推進する補助・助成制度の設計・実施

アーツカウンシルが専門性を活かして、第3次千葉市文化芸術振興計画の各基本目標に取り組む文化芸術活動を支援するため、各基本目標に応じた補助・助成制度を設計・実施します。

補助・助成については、助成金の交付にとどまらず、アーツカウンシルの専門人材による採択事業の伴走支援や、補助・助成制度そのものの効果検証も含めて検討します。

D 人材育成機能

千葉市の文化芸術の担い手(実践する人・鑑賞する人・支える人)を対象に講座等を実施し文化芸術を振興する人材を育成します。また、多様な主体、地域資源がつながる場を創出することで、千葉市に根差した新たな文化芸術活動の創出を図ります。

D-1 講座やワークショップの開催

アーツカウンシルが専門性を活かして、千葉市の文化芸術の担い手(実践する人・鑑賞する人・支える人)を対象に、文化芸術活動に関連する多様なテーマを設定し、講座やワークショップを企画・開催します。

● 想定される講座・ワークショップのイメージ

- 事業の魅力を高めるための企画に関する講座
- 事業の集客力を高める広報戦略に関する講座
- 文化芸術団体の運営に関する資金・経営に関する講座

D-2 多様な主体、地域資源がつながる場の創出

アーツカウンシルが専門性を活かして、文化芸術活動を行う個人・団体がつながる場として交流会やワークショップを企画・開催します。また、文化芸術の人材同士だけではなく、アーツカウンシルが調査した地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)や、文化芸術領域以外で活動する人材がつながる場も創出します。

D-3 文化芸術のアウトリーチの実施

アーツカウンシルが専門性を活かして、広く市民が文化芸術に触れる機会を提供するために、学校、高齢者施設、障害者施設などへのアウトリーチを行います。

E 情報発信機能

千葉市の文化芸術活動や地域資源の魅力や価値を市内外に戦略的(情報の発信方法の選択、情報の内容の選択)に情報発信することで、千葉市の文化芸術の表出を図ります。

E-1 市内の文化芸術の戦略的な情報発信

アーツカウンシルが専門性を活かして、調査・蓄積した文化芸術活動や地域資源を戦略的に情報発信します。また、アーツカウンシルがアーカイブ化した市民の文化芸術の活動成果について、キュレーションして、蓄積した作品のバックボーンやストーリーを動画とすることなどにより、ホームページ、X、Instagram 等を活用し情報発信します。

E-2 アーツカウンシルが支援した活動の情報発信

アーツカウンシルが専門性を活かして、相談支援や伴走支援、補助・助成による支援をした文化芸術活動について、活動支援の一環として、ホームページ、X、Instagram 等を活用し情報発信します。

F 芸術祭を契機とした推進機能

芸術祭を契機に見出された地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)、プロジェクトの成果を、アーツカウンシルが蓄積して、平時の文化芸術振興や次期の芸術祭で発展させることで、千葉市の文化芸術の魅力や価値の創出を図ります。

F-1 芸術祭のプロジェクトの成果等の文化芸術振興への活用

アーツカウンシルの事業展開に、芸術祭を契機に見出された地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)やプロジェクトの成果を活用します。

次期の芸術祭の企画運営に、アーツカウンシルの専門人材が関わることで、アーツカウンシルに蓄積されたプロジェクトの成果等を活用します。

(2) 各機能の相互関係

機能 A 調査・研究機能で調査した市内の地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)、市民の文化芸術活動のアーカイブ、文化の担い手と形成するネットワークをベースとして活用し、機能 B～E を展開していきます。

機能 F 芸術祭を契機とした推進機能は、芸術祭と機能 A～E の成果を相互活用していきます。

● 想定される機能 A～E 成果の芸術祭への活用イメージ

- 調査した市内の地域資源(人的資源、空間資源、歴史や自然)を活用したアートプロジェクトの展開
- 相談支援や伴走支援をした文化芸術活動をする個人・団体の活動成果を芸術祭で発表するようなアートプロジェクトの展開
- 市内の文化芸術の魅力や価値を芸術祭と連動して市内外に情報発信

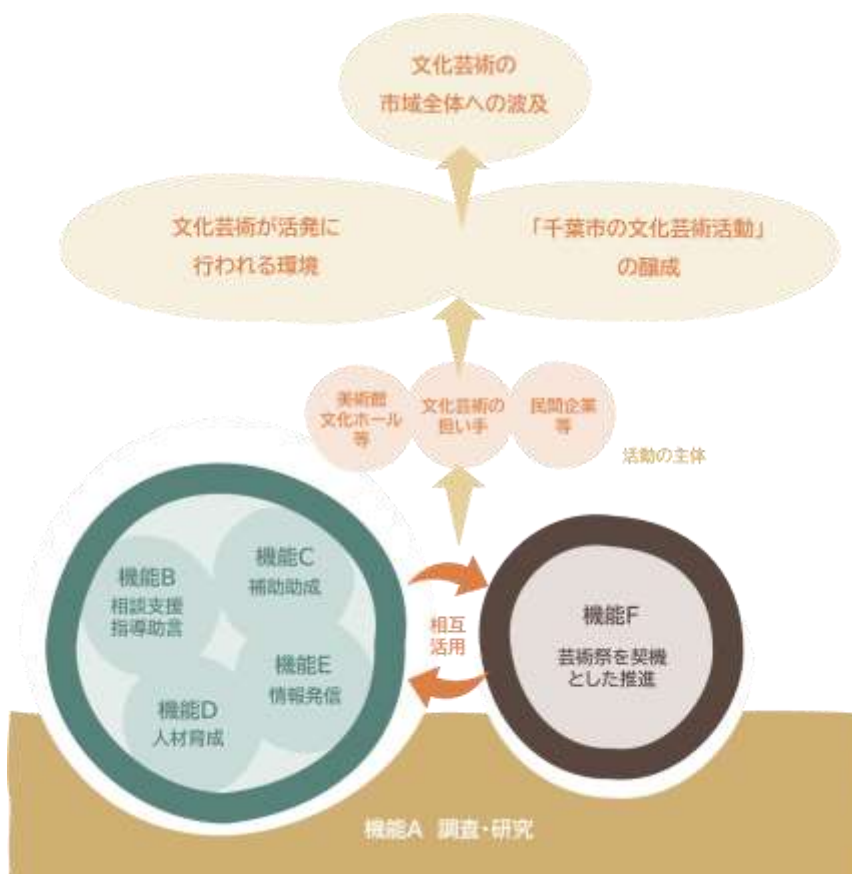


図 各機能の相互関係イメージ

5 スケジュール

令和7年度に本基本構想を基に、千葉市アーツカウンシル【仮称】の稼働に向けて、事業内容や必要人員等を検討します。

令和8年度にアーツカウンシルの稼働を目指します。